指導案の作成例（小学校）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　大分県教育委員会

第　学年　体育科学習指導案

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　日　時：令和　年　　月　　日（　）　　校時

　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　 場　所：○○市立○○小学校　体育館

対　象：○年○組　○名

指導者：（職名）○○　○○

※例　「ボール運動」：ゴール型（サッカー）

１　単元名　　「　領域名　」

２　単元の目標

* （知識及び技能）
* （思考力、判断力、表現力等）
* （学びに向かう力、人間性等）

学習指導要領解説の□囲みを参考に示す。語尾は、指導者の立場で書き、「～できるようにする。」と記載する。

※教科の目標と評価の観点を混同しない。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 教科の目標 | 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |

３　指導にあたって

1. 単元観

①指導者から見た特性

・運動の形式や技術の仕組み、系統性など

　　　・児童の心身の発達に与える効果など

②児童から見た特性

・その運動を学ぶ意義やその運動をどのように楽しめるかなど

　（２）児童観

　　　　①学習の経験状況、興味・関心、意欲、学び方の状況、技能の習得状況

　　　　②体力実態、質問紙調査結果、男女数

必要に応じて記載する。

　　　　③本単元における児童のよさと課題の整理

　（３）指導観

　　　　①「単元観」「児童観」を踏まえた指導の方向性及び具体的な指導の手立てなど

　　　　②（研究テーマとの関連）

　　　　③単元を通して、児童に付けさせたい力

４　内容のまとまりごとの評価規準及び単元の評価規準

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

（国立教育政策研究所）から引用すること

※児童や学校の実態を踏まえ、各学校・授業者で作成すること

※２学年にわたって指導する場合は、２学年分の評価規準を作成し、何をどの学年で評価するのかがわかるように表示すること。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 内容の  まとまりごとの  評価規準 | | ・  知識と技能に分けて設定する。  ・ | ・  思考・判断と表現に分けて設定する。  ・ | ・  愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全の各項目に分けて設定する。  ・  ・  ・  ・ |
| 単元の評価規準 | ○年 | ①  評価規準の語尾は、「～できる」（技能）、「～している」（知識、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」、「～しようとしている」（主体的に学習の取り組む態度の「健康・安全」以外）と表記する。  ② |  |  |
| ○年 |  |  |  |

※「習得場面」と「活用場面」を学習状況に応じて設定すること。

５　指導と評価の計画

　（１）単元指導計画と評価計画**（2学年分）**

（○年生）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | １ | ２ | ３ | ４ | ５ | ６ | ７ | ８ |
| 0  45 | ※学習指導要領解説は、２年間のまとまりごとに目標及び内容が示されているため、各単元における指導も２年間を見通して計画することが望ましい。  ※２年間で指導する際には、「単元指導計画と評価計画」も２年間を見通して立てる。 | | | | | | | |
| 知・技 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 思・判・表 |  | ② |  |  |  |  |  |  |
| 態度 |  |  |  |  |  |  |  |  |

（○年生）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | １ | ２ | ３ | ４ | ５ | ６ | ７ | ８ |
| 0  45 | ※評価は原則１時間に１～２つとし、複数の評価を設定する場合には、評価方法が重複しないように工夫する。  ※「技能」及び「思考・判断・表現」の評価は、指導後一定時間経過後の評価をする方がより確実。  ※「知識」（保健を含む）及び「態度」の評価は、指導した日に評価することも可能。 | | | | | | | |
| 知・技 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 思・判・表 |  | ② |  |  |  |  |  |  |
| 態度 |  |  |  |  |  |  |  |  |

２年間を見通した指導・評価計画を作成することで、系統的な指導ができ、未履修や学びの空白がなくなります。

（２）指導と評価の計画（○年生）

※**授業を行う学年のみ**作成する。

※学習指導要領解説を参照のこと

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時 | めあて・学習活動 | 評価計画及び評価方法 | | |
| 知・技 | 思・判・表 | 態度 |
| １ | めあて  １  ２  ３ | ①  学習  カード |  |  |
| ２ | めあて  １  ２  ３ |  |  | ①  観察 |
| ３ | めあて  １  ２  ３ | ②  観察 |  |  |
| ４ | めあて  １  ２  ３ |  | ②  ワーク  シート |  |
| ５  (本時) | めあて  １  ２  ３ | ③  ＩＣＴ  機器 |  |  |
| ６ | めあて  １  ２  ３ |  |  |  |

※**授業を行う学年のみ**作成する。

６　指導内容及び単元の評価規準（○年生）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 指導内容  単元の評価規準 | ※学習指導要領解説を参照のこと  （上）指導すること、  （下）評価すること、　　　　という原則。  ※４にある「単元の評価規準」を用いる。 |  |

７　本時の展開（○時間目／○時間中）

※教師の立場で記入する。

1. 本時のねらい
2. 本時の学習評価

・「４　単元の評価規準」から該当するものを引用する。（評価項目）

（３）学習過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容及び学習活動　◆指導上の留意点 | 評価規準及び評価方法 |
| はじめ　○分 | １　集合、あいさつ、健康観察  ２　用具の準備、準備運動  ※児童の立場で記入する。  ３　本時のねらいと評価項目の確認  めあて：  評　価：上記の（２）と同じ表記　　　　　　　　　　　　　　　　（評価項目） |  |
| なか　○分 | ４　活動Ⅰ  ※評価規準の判定基準「Ｂ」を明記すること。  ※目指す姿がＢ評価のため、1番上に書く。  　○  　・    　◆  ５　活動Ⅱ  ※「習得場面」と「活用場面」を学習状況に応じて設定すること。 | おおむね満足  ※「Ａ」は「Ｂ」より質的な高まりを意識して設定する。  十分満足  努力を要する児童への手立て  （観察） |
| まとめ　○分 | ６　本時の振り返り  ７　整理運動、用具の片付け、あいさつ | ※「Ｃ」となる児童の姿を想定し、指導の具体的な手立てを記入する。 |

※本時のねらい（児童のめあて）、学習内容及び活動、評価規準及び評価方法を関連付けること。

※ボリュームイメージ案（全５ページ）

（１ページ）１～３

　（２ページ）４、５（１）

　（３ページ）５（２）

　（４ページ）６

　（５ページ）７

１　指導する内容　＝　【学習指導要領解説（例示）】を参照

２　指導する内容　＝　評価の内容

３　例示にある内容をどんな方法で教えるのか　＝　「まるわかりハンドブック」（文部科学省）等の指導書を参照。

この順番で考えると指導内容が絞られる。